

平成28年度 第2回昭和町総合教育会議 議事録

1 日 時 平成29年2月6日(月)
開会 午後3時00分 閉会 午後4時20分

2 会 場 昭和町中央公民館 第3会議室

3 出席者 町長 角野 幹男
副町長 志村 武夫
教育長 佐野 勝彦
教育委員 磯部 幸廣
教育委員 清水 正夫
教育委員 太田 學
教育委員 山田 由美
押原中学校校長 鷹野 弘
西条小学校校長 小林 泉
押原中学校教頭 葉袋 貴
常永小学校教頭 深沢 秀興
押原小学校PTA副会長 秋山 清

(事務局関係)

総務課長 渥美 幸久
総務課総務係長 三井 浩樹
総務課政策秘書係長 今村 圭一
教育指導監 柴 茂生
教育委員会学校教育課長 五味 隆
教育委員会学校教育課学校教育係長 今村 秀紀

4 協議事項 (1) 平成28年度第1回総合教育会議の議事録確認
(2) これからの昭和町教育について
(3) 意見交換

別紙（議事詳細）

1 はじめの言葉（渥美総務課長）

2 町長あいさつ（角野町長）

※あいさつ内容は省略

3 議事

（1）平成28年度第1回総合教育会議の議事録確認

三井総務係長より、平成28年度第1回総合教育会議議事録の確認について説明を行った。

（2）これからの昭和町教育について

佐野教育長より、これからの昭和教育について説明を行った。

○昭和町の教育に望むこと

※昭和町で育てていきたい子どもの姿とは

- ・ねばり強い子
- ・たくましい心と体を持った子
- ・あいさつができる子

※こんな学校であってほしいと思うこと

- ・しっかりとした学力が保障できる学校
- ・いじめのない学校
- ・地域に開かれた学校

※保護者や地域に対して望むことは

- ・教育に関心を持って欲しい
- ・地域の文化や伝統を伝えて欲しい

（渥美総務課長）

ただいまの説明に対してのご質問やご意見がありましたらお願いします。

（小林西条小学校校長）

2番目の「こんな学校であってほしいと思うこと」の3項目につきましては、私も同感です。特にいじめのない学校については、毎学期、生活調査ということで、いじめがあるかないかという調査はしていますが、そういった受身的な事だけではなく、今の子どもたちを教員が理解しないと

いけないと思っています。何か起きてから対処するのではなく、今、目の前にいる子どもたちを日々しっかりと見つめていかないといけないということで、できるだけ一緒に遊んだり、清掃を一緒にしたりだとか、放課後の時間は少ないですけど、子どもたち一人ひとりの違いとか、思いとかを遊びながら把握していくことから、子どものことを理解していくことからいじめの早期発見につながるのではないかとということで、子どもと一緒に遊ぶということは大事にしたいと考えています。

「地域に開かれた学校」ですけれども、西条小学校の場合、ほたるっ子を守る会がありまして、登下校の見守りも永くやっています。それから地域の方に野菜づくりや米づくり、読み聞かせとかいろいろな面で協力をしていただきながら、授業を専門的、立体的な学びができるよう地域と一緒に授業を進めている良さがあると思います。

押原小学校が先行していろいろな取り組みをされていますので、スクールギャラリーやコンサートなど、非常に地域に開かれた行事を率先して行っていますので、西条小学校としてもスクールギャラリーを近いうちに行う予定でいます。とにかく私たちはもっと学校を開いて、地域の皆様に来ていただいて、学校を理解していただきたい。当面は押原小学校をモデルにがんばりたいと思っています。

(鷹野押原中学校校長)

小林校長の意見をお聞きして、中学校は小学校と少し違いますが、特に学力についてはその先の高校入試がありまして、やはり授業については、先生に努力してもらって高校入試まで持っていくようなわかりやすい授業を行っています。今までの教え方とは違って、授業改善を行ってくださいということは盛んに言っています。学力については、中学生になると差が出てきてしまう状況があります。学力が低い子も救いたいという気持ちがあります。しかし、学力が低い子にあわせると授業が遅れてしまうという教師としてはやるせない気持ちのまま授業を行わなければならないというのが現実ではないかと思っています。町の方で雇っていただいています教育指導員を利用して細かい指導ができるような体制を今後も続けていかなければならないと考えています。

「いじめのない学校」については、中学生になると自我が出てきて難しい時期でして、捉え方でこれはいじめだと思ってしまって、増えてくる時期です。学校としても大切にしていきたいのは、教員が言うより仲間同士から減らしていくということで、生徒会を中心に「いじめゼロ宣言」を宣言して友達同士の中でいじめはダメという雰囲気を作っていくということが中学生はできると思っていますので、このようなことから進めていこう

と考えています。自分たちでいじめを減らしていこうという雰囲気を作って生きたと思っています。

「地域に開かれた学校」ということで、保護者も小学校までは子どもクラブという中での対応がありますが、中学生になると学校に任せきりというふうになってしまう。コミュニティスクールということで、地域の人に来ていただきたいとお願いをしたところ、中学校は敷居が高いとかという話があったが、できるだけこちらからお願いすることで敷居をできるだけ低くする取り組みをしていけば、地域の人も来てくれるようになると思っています。できるだけ中学校の様子を知らせるために、情報発信をすることによって、学校だより等を組回覧してもらったりしています。楽しみしている人もいますので続けていきたいと考えています。

3項目の中でも重点的にやっていかないとならないことだと思っています。

(葉袋押原中学校教頭)

「地域の開かれた学校」ということで、昨年度にコミュニティスクールの指定をいただく中で、学習ボランティア等で地域の皆様の力をお借りしています。中学生が地域に出ていくということで、各地区の防災訓練に参加し、中学生の姿を見てもらいながら地域とのつながりを作ってきました。

(深澤常永小学校教頭)

「しっかりとした学力が保障できる学校」と、「ふるさとかるた」の編集に関わらせていただいていたので「地域の文化や伝統を伝えて欲しい」の2点について触れさせていただきたいと思います。先ほど学力が保障できる学校に関わりまして、教育長からこれからの子どもにおいては、問題を自分で見つけ、この問題について自ら解決できる力を育てていかなければならないというお話がありましたけれども、教育というのは、特に子どもに授ける教育というのは、お話のございましたそういった力の根底に簡単に申し上げると教科書に記された内容を十分に理解できるという、いわゆる基礎的基本的な学力の保障ということと、それに基づいて自分で問題を解決できるいわゆる考える力というものが求められているのではないかと考えています。この会議に出る前に2年生の教室で電子黒板を購入していただいて、しかも電子教科書を拡大できるものを購入していただいたので、2年生の先生が電子教科書を拡大しながら、本来、紙の教科書では動かない図形が、電子データを使いながら動かしながら子ども達に視覚的に示せる授業を行っていましたが、子ども達に教科書に記された内容をしっかり理解させ、さらにそれらに基づいて考えるということを

補助的に行える環境を町で整えていただいていることにあらためて感謝申し上げます。こういった環境をより一層充実させて、我々教師が子どもたちに与え、学力保障というものをしっかりと行っていかねばならないと考えています。

続きまして、「地域の文化や伝統を伝えて欲しい」に関わるのですが、先程申し上げましたが、この度「ふるさとかるた」の編集に関わる機会を頂戴いたしまして、私自身改めて、昭和町の奥深い文化に触れる機会を得て、自分自身が大変ワクワクする経験をしました。「かるた」というツールを通して子ども達に広めていけたらいいと思っています。今回このような企画をなされたことはとても素晴らしいことだと思っています。編集に関わらせていただいた者としての要望ですけれども、学校としましては20分休みとか雨の日などに「かるた」を使う機会を考えていきたいですし、そういうことに資する「かるた」になるように限られた時間ではあります。が検討していきたいと思っております。せっかく作成した「かるた」ですので、聞くところによるといきがいクラブ等でも活用するような話を伺っておりますので、例えば、ふるさとふれあい祭りの前夜祭などで町長杯ふるさとかるた大会というような催しをしていただき、年代別もあってもいいと思っておりますし、場合によっては世代を超えて総合クラスみたいなものもあってもいいかと思っております。ぜひ、そういう機会を設けていただきまして、町民の中に深く広まるようなお力添えをいただけたらありがたいとも考えております。

(渥美総務課長)

ありがとうございました。

校長先生、教頭先生からご意見をいただきました。

他にご意見はございませんでしょうか。

(佐野教育長)

今、校長先生、教頭先生からいただいた意見を聞いていまして、先入観という言葉が出てきたと思います。学校は敷居が高くて入りづらいという言葉が出てきました。本日は教育委員の皆様もいらっしゃいますので、先入観についてどうしたらなくなるか意見がありましたらお願いします。

(太田教育委員)

町長が言っていた町民の期待というか、具体的に言えば、保護者の学校に対する希望もしくは要望を常に把握する。それは発信したものに対する反応を把握する。子どもの貧困もしくははじめ、学校に行く意味が認識で

きない。親にお金がなければ子ども達は全て貧困になってしまうとは私は思っていない。子どもが生きる喜びや夢に満ち溢れている。また人権が保障されているそういう世界が全て学校から発信できなければならない。先生は学校教育の中でも中枢にいる方々です。いじめという言葉は学校現場で絶対出してはいけない言葉だと思います。いじめがなければいいということではなく、いじめというのは始めからあってはいけない。まず学校にすることが楽しく、学習意欲が喚起される。理想と言われるかもしれませんが、私は教師自身が徹底して求めてお互いが共有し合うことが必要だと考えます。

(山田教育委員)

保護者の立場から「あいさつのできる子」について、昭和町には県外や町外から転入してくる人が多いので、知らない人にはあいさつをしないよと言っている親もいて難しいと思っています。

それから、「地域に開かれた学校」ということで、昭和町も地域の防災訓練に中学生が参加している。実際に災害があった時にどうなるかわからないですけれども、とてもいいことだということを他の保護者の方と話をしています。

中学校は敷居が高いという話ですけれども、私も経験があって中学校はあまりフレンドリーな感じがなく、中学校の先生は怖いというイメージがありました。P T Aの合唱祭で保護者の人たちが参加するのに先生たちに苦勞していただいているのを見て、イメージと違うことがわかりました。

「しっかりとした学力が保障できる学校」に関して、子どもが学校を休んだ時、教科書の何ページから何ページまで進んだか知らせして欲しい。そこがわからないと次がわからないと思います。前からお願いしているが、未だに解消されていない。インフルエンザは強制的に休みになるので、この教科はここまで進んだというふうに教えていただけないとわからないままになってしまうので、ぜひお願いしたいです。

先ほど、貧困という言葉が出てきていましたが、ふるさとふれあい祭りで、押原小学校で学校に関するもの、例えば再利用できるジャージなどを販売している。全学校で行ってほしい。外国人の方も多くなってきている。親のネットワーク等つながりがない人もジャージ等の再利用ができていいと思います。

(佐野教育長)

「あいさつができる子」に関して、山田委員からお話がありましたが、今、家庭では知らない人にはあいさつをしてはいけないと教えているので

すか。学校の方ではどうですか。学校と家庭で違っているところがあるのかと思いますが、学校としては「あいさつができる子」というのはずっと命題で簡単なことだけれどもできない。学校としては家庭に地域の人にあいさつができるように習慣づけて欲しいと言うし、家庭としては学校で教育してほしいと言う。学校ではあいさつについて、どのような指導をしているか教えていただきたい。

(小林西条小学校校長)

特に知らない人にあいさつをしないとは指導していない。基本的には地域の人にあいさつをしていこうと指導している。学校の中では子どもたちがあいさつを良くするが、下校するときはなかなかあいさつすることができないのが現実です。学校の中でも課題であります。例えば、職員がもっと地域に出て、帰りの子どもたちへの声掛けをするというのも一つの方法だと思います。地域のことは地域にお任せではなくて、学校の職員と地域の方と連携を取って推進していくということを考えている。

(鷹野押原中学校校長)

中学校でも、同じように取り組んでいますが、新入生説明会の中でもあいさつができるようになって入学してくださいという話をしました。知らない人にあいさつをしてはいけないという指導はしていない。不安の思うというのも分かる。名札をつけないとか、名前をわからないようにするとかいろいろなところで言われていますが、やはりあいさつは基本だと思います。

(太田教育委員)

先ほど山田委員がおっしゃったインフルエンザ等で出席停止になった場合について、何年もお願いしていることで最低限ことをしてあげないとならないと思います。出席停止の児童・生徒に学校からのサポートが必要だと思います。ぜひ、校長会等で確認し、実行していただきたい。

(志村副町長)

昔は欠席した児童・生徒に給食のパンを届けてくれて、その時に今日はどこまで進んだか教えてくれた。今はパンを届けることもないし、インフルエンザであればうつらないように家に行くこともない。昔の方が子ども同士のやり取りがあったように思います。

(山田教育委員)

前は基礎ができない子とできる子で教室がわかれていた。現在はいいんですか。

(佐野教育長)

小学校は担任だからマンツーマンでできますが、中学校では教科担任制なので教科の先生が担任であればいいが、担任でなければなかなか連絡することができないが、どの生徒が休んでいるかはわかるので、今日はここまで進んだかわかるようにというお願いはしているところです。

(太田教育委員)

今はなくなってしまったが、昔は学級日誌があり、今日は何ページから何ページまで進んだというように書いていた。学級日誌のようなものがあればいいと思う。

(佐野教育長)

常永小学校の深澤教頭からお話のあった「かるた」のことについてですが、けれども、町内に文化財が少ないと思っていたが、編集に伴い、文化財審議委員さんたちと町内を回ってみたところ、いろいろな文化財がたくさんあるということを感じました。学校の先生方も町内の文化財を回っていただきたい。文化的なものに今、関心を持っていかないとやがて消えていってしまうのではないかと感じました。子どもクラブで自分が暮らしている地域の文化財の写真大会や図画大会を行うと、地域の再発見ができると思います。歴史的なものについてみんなで学ぶような機会ができればと思います。

(深澤常永小学校教頭)

今回、「かるた」の編集に携わり、はじめて目にする伝承もありました。上河東地区のお寺の鰐口にまつわる話や本堂に織田信長の刀傷があるという話を聞き、昔の人と心がつながる想いがした。ふるさとを子どもたちに伝えていくことは大切なことだと感じました。

(磯部教育委員)

地域の文化とか行事とかいろいろありますが、実際、参加するのは小学校の低学年の子どもが多い。呼びかけを行っているが、小学校の高学年の子どもはスポ少等があり参加できない。また、小正月の行事等を行うのも夜になってしまって、子どもだけでは危ないという保護者もいて、保護者

に理解してもらえなければ、子どもの参加も少なくなってしまう。

(渥美総務課長)

他に意見はございませんでしょうか。

ないようなので、議題の「これからの昭和町教育について」は以上とさせていただきますと思います。

それでは、意見交換を行いたいと思います。

これらに関して、それぞれの立場で努力していることや努力したことで改善したこと、逆に課題となっていること、こんなことをしてみたいので町の協力をお願いしたいことなどを自由に発言していただきたいと思います。

(太田教育委員)

私は教育委員とは別に区長をしています。昭和町12地区あってもあまり情報交換がありません。各地区で運営や伝統的な行事も違う。

常永地区は若い世代の方が転入して、今までの住民の方と新たに転入してきた方の融合が必要になってくると思います。

町内の学校の立ち位置として、押原小学校は児童数が減少し空洞化、西条小学校は歴史も30年あり課題があるにしても安定期、常永小学校は黎明期というか、私たち教育委員がよく聞かれるのが校舎の増改築を含めた教育の充実、私が常永小学校にいたときは周りには田や畑でした。今は周りに住宅が増え、学校と地域の連携というのは大きな山に来ていると思います。より充実した教育活動していただきたいと思います。

(佐野教育長)

今、小学校の大きな問題として、ボランティア団体を構成するメンバーが高齢化してきている。また、それ以外の諸団体も高齢化してきている。そこで後継者がいないという問題が出てきている。これまで学校教育に関わってくれた地域の方が体力の限界ということになっています。そういうことを考えたときに学校の方も真剣に取り組んでいかないと、コミュニティスクールをつくったが、支えていくメンバー減っているという現状を理解し、積極的に後継者を見つけるのに学校も関わっていき、若い人を育てていく必要があると思います。

(葉袋押原中学校教頭)

私も戦争体験の貴重なお話を聞きました。積極的に若い人たちに引き継いでいただきたいと思っていますが、戦争体験をした人たちも高齢になっ

てきています。常にその方々を中心に次の世代の方々を探していくというアンテナを持って取り組んでいかなければいけないと思います。本校でもそういった取り組みを始めたところですが、次の10年を見据えていかなければいけないと思います。

(深澤常永小学校教頭)

昨日、町外の方から新入児が1名転入してくるという連絡を受けました。来年の4月1日から500名の児童をお預かりすることになりました。開校当時は300名ほどだったので、本当に子どもたちが多くなったと思いました。教育委員さんからお話がありましたけれども、ご存知とおりの河西地区を中心に人口が増え、増加した児童の半数が河西地区です。先ほど教育長から先入観というお話がありましたけど、学校の敷居が高いということであるならば、学校から率先して地域に出ていくという取り組みをしていかなければいけないといった問題は解決できないということ改めて感じたところです。今日ここでご指摘をいただきましたことについて学校に戻り校長に報告する中で新たな取り組みをしていかなければいけないと感じました。

(渥美総務課長)

他にご意見はございませんでしょうか。

それでは、本日は様々なご意見をいただきましたが、各教育委員の皆様からのご意見は、これからの教育行政の中で生かしていけるよう努力したいと思います。

本日は長時間にわたりありがとうございました。